

「地域に誇りを持ち、生涯にわたって学び続ける生徒の育成」

～オール氷上で磨き合う学校 チーム氷上で支え合う学校～

- 重点目標
- ①確かな学力の育成
 - ②生徒と教師の居場所づくり
 - ③生徒に向き合う環境づくり
 - ④信頼される開かれた学校づくり

豊かな人間性

- ・体験学習や様々な学校行事を通して創造性、協同性を育成する。
- ・「命をはぐくむ講演会」により、命を大切にすることを養う。
- ・「ABCDの原則」を行動規範とした生活を送る。
- ・人権尊重の精神を育成する道徳教育を展開する。

健康・体力

- ・武庫川女子大との体力アップ事業の成果を引き継ぎ、体育の時間を要として部活動や日常生活の中で体力づくりに取り組む。
- ・学校教育全体で食育に取り組み、望ましい生活習慣を確立させる。

何ができるようになるか
○学校教育の基本

- ・自分の考えを書いたり発表したりできる。
- ・自分と異なる考えを聞いて受け入れられる。
- ・的確に物事をとらえ課題を解決できる。
- ・知識・技能、思考力・判断力・表現力
学びに向かう力・人間性

資質・能力の育成

何が身についたか
○評価を通して学習指導を改善

- ・学び合いを通じて、自分と異なる意見を受け入れて考えを広げるなど主体的に学ぶこと。
- ・学習したことや体験したことを生かして学びの質を高めること。

生徒の実態

素直さ、明るさがある。

【課題】

- ・自分の考えを伝える力
- ・物事を適切に判断する力
- ・人間関係を構築する力

子どもの発達をどのように支援するか

- ・学校全体で「学び合い」「支え合い」ができる雰囲気づくりを進める。
- ・学校(教職員全体)と関係機関や地域・保護者との共同と連携を図る。

目指す生徒像

- ・自ら取り組む(自主)
- ・言動に責任を持つ(責任)
- ・自他を大切に(思いやり)

何を学ぶか(教育課程の編成)

- ・3年間を見通した授業づくりを進める。
- ・言語活動の充実により表現力の向上を図る。
- ・1人1台のPC配置を踏まえ、ICTを活用した授業作りを研究し実践を進める。
- ・「学習評価を生かした授業改善研究事業」に取り組む。

どのように学ぶか(教育課程の実施)

- ・全体計画・年間指導計画により「単元を通してつきたい力」を明確化する。
- ・教科の特質と教科間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程を編成する。
- ・「めあて」を明確にし、「学びあい」活動を進め、「振り返り」を確実にを行う授業を展開する。
- ・主体的・対話的で深い学びを実践する。

実施するために何が必要か(指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働)

- ・校内研修活動(毎学期に研究授業を実施、全員による研究協議)を推進する。
- ・教育課程上の工夫と新しい評価について保護者の理解を深める。
- ・保護者や地域との情報共有を進め、連携して教育にあたる。

安全・安心を守る

- ・「いじめ」の早期発見と適切な対応の実施
- ・「体罰、不適切指導」の根絶 危機(防災)管理の徹底
- ・教育相談活動の充実
- ・特別な支援や配慮が必要な生徒への対応

開かれた学校づくり

- ・学校ホームページの充実と定期的な更新
- ・学校運営協議会の設置とコミュニティ・スクール化
- ・地域行事への参加、ボランティア活動の推進
- ・地域・保護者との連携推進